能登半島地震　被災地支援活動報告

令和６年１月１日、穏やかなはずの新年初日に、石川県能登半島付近を震源として最大震度７の地震が発生し、能登半島全域をはじめ広い範囲で甚大な被害が発生しました。

日南町は鳥取県と連携し、被災地へ職員を随時派遣しています。この度は、日南町から最初に被災地支援活動に参加した総務課の渡邊勝也防災専門員から、被災地の状況をお伝えします。

鳥取県からの支援体制

今回の震災に対して、全国から支援が行われています。鳥取県でも、被災した自治体に対し「カウンターパート制度」に基づき被災地への支援を行っています。

「カウンターパート制度」とは、被災した自治体に対し、被災地以外の県や政令市が分担して被災自治体を直接支援する制度です。鳥取県は、愛知県・神奈川県・横浜市・岡山市とともに、石川県志賀町を支援しています。

鳥取県は、県職員と市町村職員で編成された約20人の支援職員を交代で志賀町に派遣し、支援を続けています。私は鳥取県からの第５陣支援職員として、他の市町村職員とともに１月18日から22日まで志賀町で活動しました。

鳥取県・第5陣被災地支援職員

県と市町村の職員約20人で、被災地支援にあたり、主に支援物品の管理などを行いました。

志賀町の状況

志賀町は能登半島中部に位置し、人口約１万８千人、高齢化率45％の町です。農業・漁業・工業が盛んで、北陸電力の志賀原子力発電所が立地しています。

志賀町は、今回の地震で最も強い震度７を記録しました。地震による死者は２人、重軽傷者95人、住宅被害は４４２６棟と、甚大な被害が発生し、私が活動した期間でも千人以上の人が避難生活を余儀なくされていました。

志賀町役場付近の歩道

役場周辺の歩道は至るところに陥没や隆起、砂の浮き出しが見られ、液状化が伺われました。

志賀町役場は町の南部に位置しており、建物に損傷は見られませんでしたが、基礎から外の外構は舗装の損傷や陥没が著しく、歩道のマンホールも大きく浮き上がっていました。同じ志賀町でも、震源に近かった北部では深刻な建物被害があると聞きました。

志賀町での鳥取県の支援は、全国から寄せられる支援物資の荷受けと払い出しや、避難者に提供する食事の手配でした。被災者に提供する食事は質素で野菜がほとんど入っておらず、被災者が過酷な状況に置かれていることが推察されました。

避難所で提供されていた食事

地震発生から３週間後の食事です。野菜も不足し、避難者の方々のご苦労がしのばれます。

志賀町では、停電はほとんど解消していましたが、水道の復旧の目途が立たない地域も多く、自宅で調理や食器洗い、洗濯もできず、トイレも流せないため、多くの人が携帯トイレを使っていました。

災害対策グッズの有効性

支援物品として送られたものでは、携帯ウォシュレットに対する評価が高く、みなさん喜んでおられました。携帯ウォシュレットは、百円ショップに売ってある安価なものから電池で作動する数千円のものまで、多くの機種があります。普段から使えるもの、外出した時に使えるものは、災害時にも役立つアイテムだと感じました。

また、冬季の避難所生活では防寒対策も重要です。厳しい冬の寒さの中では、防災用毛布だけでは生活できないため、全国から届けられた寝袋が大変役に立っていました。個人で備えられる対策としては、防災アルミシートが有効です。大きなアルミシートで体を包むことで、防寒・防風に役立ちます。これも百円ショップで購入できますので、備えておかれることをおすすめします。

災害関連死を防ぐために

災害を生き延びても、その後の避難生活で体調を崩して亡くなる災害関連死にも注意が必要です。

これを防ぐために最も大切な項目は、「ＴＫＢ」といわれる、「トイレ・キッチン・ベッド」の整備です。清潔なトイレ環境、バランスの取れた食事、清潔で体を伸ばして休めるベッドは、避難時の健康維持のために重要です。

大きな災害を経験するたびに、日本では災害に対する救助や支援の体制が充実してきました。もし私たちが被災者になっても、必ず全国から救助や支援が来ます。それを信じて、災害によって直接死亡したりけがをしたりないよう切り抜ける必要があります。

私たちにできる支援

被災地では、これからボランティア活動も活発になってくると思いますが、今、私たちが被災地の外からできる支援は、お金による支援です。

能登地方の特産品を購入し、現地の経済を活性化することや、信頼できる機関を通じた募金をすること、被災した自治体に直接届く返礼品なしのふるさと納税をすることなどで、被災地を支援することができます。

日南町でも、役場・健康福祉センター・日南病院・あかねの郷・社会福祉協議会で義援金を受け付けています。みなさんの温かいご支援をよろしくお願いします。

【問合せ】役場総務課
電話：８２－１１１１